

○通常の学級における特別支援教育の推進

全ての児童生徒が自己肯定感や自己有用感を味わえるよう、児童生徒への理解を深め、一人一人の能力や特性、教育的ニーズに応じた安心感のある指導・支援に努めます。その際、特別支援教育の視点に立った児童生徒理解を基に①温かい人間関係を育む ②分かりやすい環境を整えることを2つの柱として安心感を高められるよう指導に取り組みます。

安心感を高める指導・支援



○温かい人間関係を育む

日常の学校生活において教職員が児童生徒と直接的に関わる中で、児童生徒への理解を深め、温かい人間関係を育てていくことが大切です。

児童生徒に寄り添う



教師と児童生徒の信頼関係

○児童生徒に寄り添い、信頼関係を築くために

- ・言動を多面的に捉え、持っている力を認める。
- ・毎日の声掛けを行う。
- ・体調管理や生活リズムを把握する。
- ・児童生徒の努力や成長の過程を褒める。

- ・児童生徒の学校での様子を連絡帳等で保護者に伝える。
- ・学校、保護者、専門機関等で情報を共有し、児童生徒への関わり、指導、対応、支援を考え実践する。

- ・アセスメントシートの活用
- ・個別の教育支援計画の作成と活用
- ・会議・研修での教職員の児童生徒についての共通理解
- ・専門機関からの情報共有（市、医療機関、学童保育、放課後デイサービス等）

児童生徒同士をつなぐ



児童生徒同士の認め合う関係

○児童生徒をつなぐための方法

- ・言動を肯定的に捉え、全体に返す。
- ・児童生徒のがんばり、よい行動を細かく見取り、個別に称賛、全体に広げる。
- ・教師も一緒に行動する。
- ・普段から肯定的な関わり、声掛けを意識する。

○教え合ったり、助け合ったりする活動の場の例

- ・交流及び共同学習
- ・委員会、クラブ、縦割り班活動での異学年交流
 - ・ペア学習
- ・グループでの話し合い活動
- ・教え合う学習活動（ミニ先生）
- ・児童生徒同士のよいところ探し
- ・できたねカードの交換
- ・異学年への発表活動（社会、理科、総合的な学習の時間）
- ・関わり方の見本（教師・友達）の提示

分かりやすい環境を整える

日常の学校生活において教職員が児童生徒と直接的に関わる中で、児童生徒の環境との相互作用について理解を深め、分かりやすい環境を整えていくことが大切です。

全体と部分の構造を明確にする



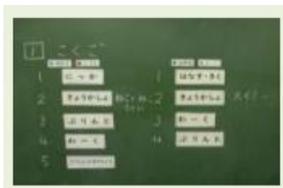
活動の見通しをもたせる

○活動の見通しをもつためには

- ・初めに全体の構造と時間計画を伝える。
- ・1日の流れ、1時間ごとの活動の流れを伝える。※単元の流れも伝えるとよい。
- ・学習のめあてを提示
- ・活動の節目に現在の位置を確認



一日の流れ



学習内容の提示

※下野市令和3年度研究収録

「特別支援教育推進研究」より

- ・学習活動のルーティン化

例 算数

計算フラッシュカード→問題→めあて
→見通し→自力解決→共有→練習問題
→振り返り

情報を取り入れやすくする



情報処理の効率化

○情報を取り入れやすくするためには

- ・必要な情報に絞る。
- ・短く、端的な言葉で話す。
- ・情報を時間的（順序・ナンバリング）、空間的に分けて伝える。
- ・視覚と聴覚に働き掛ける。
- ・見やすい大きさの文字と色の板書
- ・シンプルな黒板や教室掲示
- ・座席の位置
- ・表示は落ち着いた色合いにする。
- ・ヒントコーナーの設置
- ・ICTの活用（デジタル教科書・タブレット）

例

- ・板書の写真を撮り、子どもに見せる。
- ・ノートのPDF画像を提示し、教師が記入する。
- ・キーノートによるまとめ学習
- ・google jamboardによる意見集約



<参考資料>

栃木県教育委員会事務局特別支援教育室

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育 ～『安心感を高める』指導・支援の充実～」

栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所 下都賀地区市町教育委員会連合会

「令和5（2023）年度版 下都賀地区学校教育の重点 ～特別支援教育～」